

# 埼玉県

りよう かみ さん

# 両神山

【所要時間●5時間20分】

信仰、花、鎖場のスリル  
多彩な顔をもつ山

埼玉県の北の端、群馬との県境近くに位置する名峰が両神山だ。

標高は1724メートルと平凡だが、日本百名山に数えられるだけあって魅力は多い。まず、その山容。山頂部はノコギリの歯のように、鋭い岩頭が連なっている。おまけに稜線が左右でスパッと切れ落ち、一度見たら忘れられない姿。ちよつと怖そうだが、なんとなく登ってみたい、そんな気にさせるのだ。

次に由緒ある信仰の山であること。山名の由来は、神話の時



代にさかのぼる。日本武尊が東征の折、この山を八日間見ながら旅をしたことから八日間山と名づけられ、それが宗教的な竜神と結びつき、両神山に転化したといわれている。信仰の対象である両神神社は東麗の日向大谷に里宮、山頂に奥宮がある。その昔、この山域には修験者も数多くいたそう。

そして、もうひとつ、この山ならではの豊かな自然があるのだ。4月から5月にかけて、山頂部の岩稜はアカヤシオのピンク色の花で彩られる。また、樹林帯にはエイザンスミレやムラサキケマン、沢治いにはニリン

ソウ、ハシリドコロ、ツルキンバイなどの珍しい花でいっぱいになるのだ。さらに、初夏にはコノハズクの「ブッポウソウ」という鳴き声を聞くこともできる。山好きには興味の尽きない山なのだ。

ここでは、花を見ることを主にし、歩行に気を使う鎖場通過の少ない白井差から入って周回するコースを紹介する。

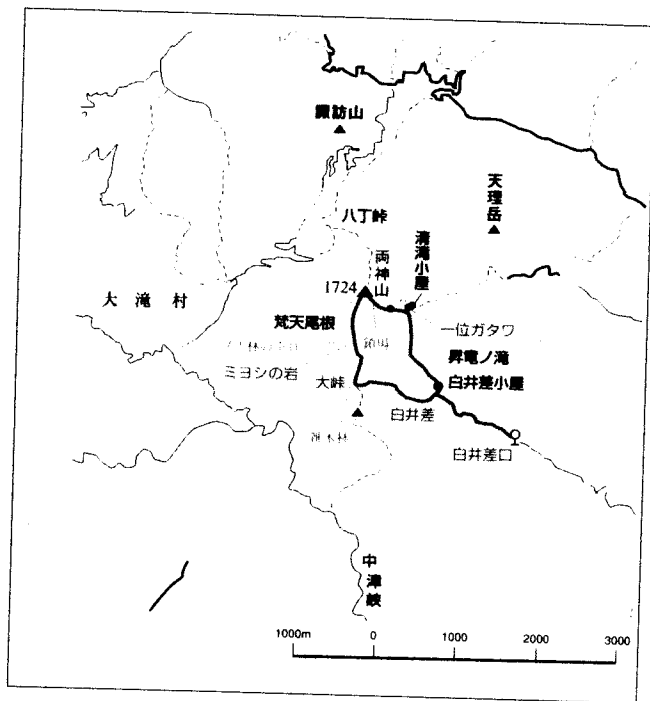
山頂からは富士山や八ヶ岳、上州の山も一望。白井差口から車道を登っていくと、40分ほどで白井差集落。この先の橋を渡ったところから、登山道は始まる。右に昇電ノ滝を見、山ノ神を過ぎると、道は樹林帯の斜面に。このあたりから、スマイレなどの愛らしい花が発見できるようになる。斜面を登りきったところが一

位ガタワ。ここでひと息入れて、左の尾根を登っていく。急登が続く、鎖場も登場。だが、慎重に登れば、それほど危険はない。さらに尾根をたどっていくと、清滝小屋からの道と合流。両神社と御岳神社の小社もここにある。富士見坂を登り、稜線に出たら、右に。短い鎖場を越えると、両神神社奥宮がある頂上に着く。山頂部は視界が360度開け、展望は抜群。奥秩父や奥多摩の山はもとより、南に富士山、西に八ヶ岳、北には上州の山々が一望できる。

もっとも山頂は狭く、登山者の多い時期は、のんびりしてもいられない。ひと息ついたら下山だ。梵天尾根を南に向かう。大笹のピークを越え、ブナ林の中の斜面を下っていくとヒゴのタオと呼ばれる鞍部。展望のいいミヨシの岩を越え、下っていく。大笹に着く。分岐を左に折れ、雑木林の斜面を下っていくと沢筋に。このあたりではニリンソウの群落も見られる。花を見ながら下っていくと、やがて白井差の集落。さらに30分ほどで白井差口のバス停に戻る。



古びた社が歴史を物語る、由緒ある山だ



**DATA**

●アプローチ  
往路 池袋駅—(西武池袋・秩父線急行1時間30分)—西武秩父駅—(徒歩3分)—御花畑駅—(秩父鉄道25分)—三峰口駅—(両神村営バス20分)—白井差口  
復路 白井差口—(両神村営バス20分)—三峰口駅—(秩父鉄道25分)—御花畑駅—(徒歩3分)—西武秩父駅—(西武秩父・池袋線急行1時間30分)—池袋駅

●コースタイム  
白井差口—(40分)—白井差—(1時間20分)—一位ガタワ—(30分)—両神山—(30分)—ミヨシの岩—(40分)—大笹—(1時間10分)—白井差—(30分)—白井差口

●問い合わせ先  
両神村役場/両神村営バス  
☎0494・79・1122

**INFORMATION 周辺情報**

奥秩父大海温泉遊湯館 大滝村の荒川沿いに立つ日帰り温泉。1階にヒノキ風呂と地下1階に岩風呂がある。どちらの風呂からも荒川の渓谷美が堪能できる。神経痛や筋肉痛、花粉症などに効く。無料休憩室も完備。☎0494・55・0126

秩父いのしし亭 秩父鉄道三峰口の近くで名物のイノシシ鍋が食べられるのがここ。旬の野菜やキノコが入った鍋はヘルシーなので女性にも人気。前菜からデザートまでコースになっているので要予約。☎0494・54・0168

猪鍋が名物